第7期　「清流の国ぎふ」文化祭2024
文化財保護センタースピンオフ企画
「小木棒の手」体験(10/26)

まとめ

・自分でもできたという達成感がありました。楽しかったです。（小１）
・難しかったけど、知らないことを学べて楽しかったです。（小２）
・小木棒の手を今回初めて見て、「かっこいいな」と思いました。体験してみて、手足の動きが難しかったけど楽しかったです。（中３）
・参加して思ったことは、練習はとても難しかったけれど、慣れると楽しかったです。発表している時に、「神さまが見ている」と思って真剣にやりました。楽しかったのでまたやりたいです。（小４）

・知られざる伝統を知ることができたので、ありがとうございます。小木棒の手を、年に数回学べるとうれしいです。（小５）
・伝統芸能に触れることができる、貴重な経験でした。（小１保護者）
・なかなかできない体験を身近な所で行っていただきありがたいです。帰宅してから、たくさん体験のことを話してくれました。この企画が無ければ知らなかった「小木棒の手」を忘れることはないと思います。（小３保護者）
・棒や木刀を使った体験のため、参加には不安がありましたが、安全面で様々な配慮をしてくださいました。おかげで安心して参加させることができました。みんなと同じように体験に参加し、楽しかったようです。ありがとうございました。（小２保護者）

「通じた！」「分かり合えた！」笑顔輝く英語授業を求めて

多治見市教育研究所　英語教育コーディネーター　岡田　海保

４月より、「英語教育コーディネーター」として、市内小・中学校の英語の授業改善サポートをしています。

ミッションは、先生方とともに、学習指導要領の目指す授業の在り方について考え、工夫することを通して、多治見市の児童生徒の英語力をアップすることです。11 月初旬時点で、小学校のべ 28授業、中学校のべ 42 授業を参観させていただきました。

小学校では、平成23年度に「外国語活動」として第5･6学年の英語学習が始まりました。それから14年経ち、令和2年度には第 3 学年への早期化、第5･6学年での教科化と変遷を重ねながら今に至ります。初めて英語に触れる中学年児童の目の輝きや元気な声、その素地の上に立ち、新たな表現をどんどん吸収していく高学年児童。その陰では、子ども達の興味関心を引き出すために、日々、教科書にプラスαの工夫を加えて楽しい活動を創り出す先生方のバイタリティを感じます。

中学校では、語彙も文法もさらに高度化した学習指導要領のもと、多くの指導方法の中から自分の授業スタイルを模索する先生方の姿に、私自身も日々インスパイアされています。今年度の研究授業では、単元末の総括的な授業ではなく、教科書を活用した、ごく日常の授業でいかに生徒に力をつけるか、を主眼として取り組んでいます。

英語は、言葉を学ぶ教科です。そして、そのことを通して、「どうしたら、話し手として、自分の言いたいことをより良く伝えることができるか」「どうしたら、聞き手として、より良く相手の言いたいことを理解することができるか」、すなわち、より良く相手と分かり合う術を学ぶ教科でもあります。それは、英語教師として私自身が心に置いていたことの中核でもあります。 英語の授業の中で児童生徒が見せてくれる「分かり合えた！」「通じ合えた！」という輝く笑顔と、それを見る先生方のさらに輝く笑顔。そんな素敵な笑顔を求めて、微力ですが、そのお手伝いをしていきたいと思っています。